



## 「こんにちは 市長です」

12月1日号

土地開発公社の話をしてします。公社の開発面積は194ha、総事業費は354億円。市の財政に投入する額は37億円（一部投入済み）。われながら「あっぱれ！」と思っています。土地の値上がり之急だった時代、予算は付けても土地買収に手間取り、インフラ整備ができないことがしょっちゅうありました。「土地の先行取得」のために土地開発公社はできました。「表の顔」です。のちに土地分譲、まあ不動産屋さんですね。「もう一つの顔」を持つようになりました。他のまちでは珍しいことです。

20年ほど前、県企業局が41haの住宅団地を決めてくれ、私たちも地主さんも大喜び。どんな街になるかな、いくらで買い上げてくれるかな、と期待していました。ところが買い上げ価格の発表の数日前に突然、団地造成中止の知らせが県から入りました。説明はなく、一方的な通告。「常識では考えられない！」頭が真っ白になりました。全ての地主さんたちは団地造成に同意してくれていましたし、このままでは落胆は大きい。かといって、100億円を超える事業費の造成販売の経験はありません。議会の一部から反対の声がありました。

住宅の需要があるかどうか、何を強みにした団地にするか短期間でリサーチ。「売れる団地を造る！」。1週間で待たず市公社で実施することを決め、その覚悟を職員に伝えました。職員は燃えましたね。理由なき県の宣戦布告？に應える体制が整うのは早かった。挑戦的なプロジェクトチームが出来上がりました。「パルタウン城西の杜、世界一の太陽光発電団地」がもう一つの顔の始まりでした。その後1つの住宅団地、6つの産業団地を造りました。完売です。職員たちはよくやりました。現在は国道50号沿線のショッピングセンター開発を進めています。この事業を終えて不動産屋さんを閉店するつもりです。ちなみに、今は県と良好な関係にあります。（11/12記）